

筑波大学特別支援教育研究紀要第1号刊行にあたって

筑波大学特別支援教育研究センター長
前川 久男

特別支援教育研究センターが開設されて3年目の活動の一つとして特別支援教育研究紀要を発行することをめざしてきました。本センターはその名前が示すように、研究センターとして機能することが大きな柱となっています。その研究は障害科学の基礎研究と実践研究を融合し、特別支援教育が大きく日本の教育を支えるものとして発展していくための開発的研究を行う点にあります。また、学校教育法の一部改正を受けて盲・聾・養護学校は平成19年4月から特別支援学校となり、従来のセンター的機能をより大きく発揮することが期待されているところです。通常学校に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症などのある幼児、児童、生徒に対し、特別支援学校としての附属障害教育5校がもつ実践研究の成果を融合し、通常学校における支援に資する支援内容、教材教具の提供、助言など多くの課題にセンターとして取組み、全国へ発信していく役割をもっています。この2年半の間、附属障害教育5校の教育相談、支援部等の役割を担う先生方がセンターに集まり、それぞれのセンター的機能を交流してきました。その中で相互に利用可能な支援方法、またLD等のある児童生徒への利用可能な教材などのアイデアが生まれ、実践的に検証され始めています。また重複障害のある児童生徒への支援においても、学校間の協働的な実践が始まりました。

これらの一部が本紀要に掲載されていますが、今後こうした研究がさらに発展し、「障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、適切な教育指導を通じて必要な支援を行う」という特別支援教育の考え方の実現に寄与するものとなることを願い、本研究紀要の充実をめざしていく所存です。記念すべき第1号ですが、ご一読いただき忌憚のないご意見ご指導をいただければ幸甚に存じます。